

発表タイトル

ハワイの日系人と消えた天長節

発表者所属名

文化科学研究学科 日本歴史研究専攻

発表者氏名

秋山 かおり

1 日系人入植と天長節

明治元(1868)年に横浜港からハワイへ自主渡航した150人余りの人々がいた。その後ハワイ王国のサトウキビ農園の労働者不足と明治政府の失業者対策につくられた官約移民制度(1885-1894年)によりハワイに入植した日本人と、その子孫を母体としたハワイの日系人は、1910年代にはハワイで第一番目のエスニックグループとなった。彼らが日本から持ち込んだ習慣の変容した独自文化が現在もみられるなかで、初期のプランテーション生活期から確認されているにもかかわらず、現在はハワイの年中行事から消えたモノのなかに天長節(天皇誕生日)がある。

2 初期の天長節

官約移民で入植した日本人(日系1世)は、11月3日にはプランテーションでの労働を休止し天長節を祝った。1890年代にはハワイ移民住民局とサトウキビ耕地会社との間の労働契約のなかに天長節は公休日として盛り込まれていく。1911年のプランテーション・マネージャーの記録には、日本人に天長節の祝いを延期するように交渉しても物別れに終わり、その代わり別の日曜日に働くようには同意させたという。一方、1913年頃を振り返り、正月と天長節が年間を通じてたった2日の休みだったという日系1世の証言もある。当時のプランテーション・キャンプでの天長節は、相撲大会が中心に行われ、「飯屋」と呼ばれた商いをする人々に弁当を注文し、自作の三味線を弾いて唄ったり踊ったりして楽しんだという。



Photo: マウイ島ハナでの天長節(1903年頃) 幟と土俵を囲む人々が見える 所蔵: ビショップ・ミュージアム

3 第1次盛況期(1924-1926) : 1924年10月には第1次世界大戦(1914-1918)から低迷した天長節を盛り上げようと実行委員会が設けられる。この頃は、マウイ島やハワイ島でも10月30日~11月3日頃に行われ、相撲・娯楽映画・野球・フットボールなど様々な催し物を併い盛んになる。

4 第2次盛況期(1935-1940)-大規模化- : 1935年(昭和10)の移民50周年の影響もあり、天長節は大規模化する。この祝賀には、オアフ島ホノルルでは日本総領事館にて3,500人が集う。翌年、オアフ島ワイパフでは天長節の祝賀に約4,000人が集まる。1938~1940年にはハワイ各地に集まった人々により、万歳と天皇陛下への歌が斉唱されていたと記録されている。

ハワイの天長節の特徴 1) ハワイの日系人史のなかで盆踊りとともに早い時期に観察された習慣であり、初期のプランテーションにおいて「年中唯一の祝賀祭日」と認識された。2) 1930年頃まで他のエスニックグループも参加するようなお祭りのようになった。3) 1920年代の天長節の日程に独自性がみられる。日本の天長節は、大正時代(1912-1926)には大正天皇の誕生日が8月31日にも関わらず、皇さのため10月31日に行われていた。ハワイの日系人社会では、地域によりバラバラに大正天皇の天長節を祝っていた。例えば、1924年の11月1日には翌日からの天長節のプログラムがまるめて明治の天長節のようにオアフ島の新聞に載っている。ところが、1926年から昭和になると日本と同じく4月29日に天長節を行っている。

5 消えた天長節とその後の日系人の行事

1941年にも前年から引き続き行われるはずだった天長節は、12月7日(ハワイ時間)の真珠湾攻撃前にも関わらず、新聞記事では確認できない。その後、太平洋戦争に突入すると日本的な文化・活動は早急にハワイ日系人社会において自粛され、一時的に廃止される。戦後になり、現在天長節は、ホノルル日本国総領事館で小規模な行事として開催されているが、もはや一般的ではない。天長節がハワイにおける年中行事として姿を消したのが太平洋戦争に因るとするのは、日本人の移民が盛んであったブラジルでは、天長節は戦後も祝い続けられているからである。天長節に替わるかのように戦後復興された日系行事は、もともとプランテーション期から日系人によって行われていたボン・ダンスと呼ばれる盆踊りである。ボン・ダンスは1930年代には天長節と同様に数千人単位の集まりとなる大規模化をしている。そして、その後1960年代から1970年代にかけて日系人以外の多くの人々を魅了し続け、現在も盛んに行われている。ここに、かつての天長節への日系人社会の抱いていた熱狂の名残りをみる。

主要参考文献

秋山かおり(2010) 『展示『祝!ハワイにおける日本の“お祝い”の発展』にみる歴史観点からの独自文化表現』 博物館学雑誌 第36巻 第1号(通巻53号)。

木原隆吉(1935) 『布哇日本人史』(初期在北米日本人の記録 第1期《布哇編》奥泉栄三郎監修 文生書院)

Takaki, R. (1983) *Fau Hana: Plantation life and labor in Hawaii, 1835-1920*, University of Hawaii Press, Honolulu.

中原ゆかり(2002) 『ハワイ日系人のボン・ダンスの変遷』『民族音楽学の課題と方法 音楽研究の未来をさぐる』(水野信男編) pp.181-203. 世界思想社。

森田榮(1915) 『布哇日本人發展史』(初期在北米日本人の記録 第1期《布哇編》奥泉栄三郎監修 文生書院)

新聞 『やまと新聞』『ハワイ報知』『日布時事』1905年-1941年

ウェブサイト

キムラ・ヤノ・アケミ 「一世の開拓者たち-ハワイとアメリカ本土における日本人移民の歴史 1885-1924 その20 コミュニティーの行事」 ディスカバー・ニックイ 全米日系人博物館(東栄一郎;訳) <http://www.discovernikkei.org/ja/journal/2011/05/16/issei-pioneers/> (2012/1/25 アクセス)

Laura Honda-Hasegawa OHAYO Bom dia Chapter 18(Part1):Old Japan, It's here! Discover Nikkei Japanese American National Museum <http://www.discovernikkei.org/en/journal/2011/11/16/nippon-antigo-1/> (2012/9/17 アクセス)